

関学大で寄附講座

大成機工 企業の社会的使命を講演

関西学院大学国際学部の本圭一教授による講座「関西の文化・政治・経済」の中で大成機工の寄附講座が組まれた。1月8日、同社の堂馬隆之顧問が「大

阪発祥企業の存在意義とライフライン企業の社会的責任」をテーマにオンライン講義を行った。

前半の「日本経済を支えた企業を生んできた大阪」では、

『天下の台所』と呼ばれ商業の中心地であった大阪が、商才と

進取の気性に長けた人物を多数輩出してきたこと、金融・電機

・繊維等の分野における日本の名だたる企業の

講義中の堂馬顧問



発祥地になってきたことを紹介。

後半の「ライフライン企業の使命」では、不断水工法や耐震補強金具などの高い技術と開発力で発展している大成機工の沿革を振り返るとともに、堂馬氏が編集長を務める「Water & Life」誌についても紹介。昭和41年にメセナの発想で同誌を創刊した大成機工創業者・矢野信吉氏の慧眼ぶりを説明した。

また、人口減少のもとで施設更新を迫られる水道界の現状に触れ、災害が多発する中でライフライン維持に当たる事業体や企業への一般住民の理解が必

要と訴えた。

質疑では「ライフライン企業や事業体に勤務する人たちの共通点とは」との質問が挙がり、堂馬氏は「ライフライン分野、特に水道

界には『水道一家』と呼ばれるように、災害が起これば全国から被災地へと救援に駆けつける美風がある。共通点はライフラインを維持しなくてはならない

責任感の強さだと思う」となどと答えた。本本教授の話 水道管継手メーカーとして大成機工の発展の歴史とともに、ライフラインのビジネスに携わ

る関西企業としての社会的使命について講義いただいた。質疑で多くの質問が出たように、受講生にとつては新鮮で、非常に有益な時間になったと思う。